

あなたの地域でも活用してみませんか？

地域コミュニティの デジタル活用事例集

- ✓ 自治会等の活動の効率化・負担軽減
- ✓ 情報共有の迅速化
- ✓ 地域活動への参加促進



岐阜市

はじめに

岐阜市では、従来の小学校区ごとに50の自治会連合会が組織されており、市域全体をカバーしています。自治会は防災・防犯をはじめ、地域に密着した住民共同の取り組みを担う、欠かすことのできない存在です。

一方で、多くの自治会では、役員や活動の担い手確保に加え、広報物の配布や回覧などにかかる負担が課題となっています。

そこで本冊子では、地域コミュニティの活動に役立つ**デジタル活用の事例**を紹介します。まずは事例を知り、「これならできそう」「やってみよう」と感じていただくきっかけになれば幸いです。

回覧板やイベントのお知らせなども、デジタルを活用することで、**より早く・手軽に・多くの方に情報を届けることができます。**

大切なのは、地域のみなさんのつながりです。

デジタルは、そのつながりを支えるための一つの手段です。

本冊子が、自治会連絡協議会をはじめ、各地区の連合会やまちづくり協議会の皆さまにとって、自治会等の活動の効率化や負担軽減、地域活動への参加促進につながるヒントとなれば幸いです。

できそう、興味のある
「デジタル」を
見つけよう！

岐阜市市民協働生活部 市民活動交流センター

※本冊子に掲載した事例は、それぞれの取材時点の内容です。現在の活用内容とは異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、今後の参考とするため、新たな取り組み事例がありましたら、ぜひお知らせください。

また、本冊子で紹介するアプリやサービスは一例です。自治会で既に活用されている、またはこれから活用する別のアプリ等の活用を妨げるものではありません。

LINEで回覧板が
見られるなら、
情報を確認できる！

リモートだったら、
会議に参加できる！

やってみたら、
今までよりも
楽になった！

どれから始める？デジタル活用

【実践内容】

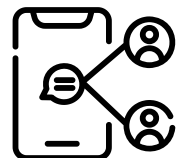
【得られる効果】

連合会役員や
自治会でグループ
を作ってみよう！

P.3へ

事例01～03

- 連絡が一度で届く
- 電話・個別連絡の手間が減る
- 言った・言わないを防げる

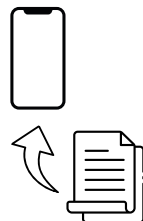


回覧板を電子化
してみよう！

P.8へ

事例04

- 回覧の待ち時間がなくなる
- 回覧の紙の印刷・配布の負担が減る
- 若い世代にも届きやすくなる

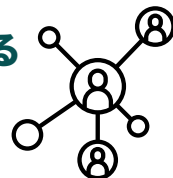


情報を広く発信
してみよう！

P.11へ

事例05

- 住民に情報が伝わりやすくなる
- 伝え漏れ・聞き逃しを防げる
- 問い合わせが減る



オンラインで
会議をしてみよう！

P.13へ

事例06

- 移動の負担が減る
- 忙しくても参加しやすくなる
- 急ぎの打合せがすぐできる



災害時の体制を
デジタルで
整えよう！

P.14へ

事例07

- 非常時にも連絡が止まらない
- 被害状況を把握できる
- 連絡が早く届く



事例 01-1

LINE



連合会役員や自治会でグループを作ってみよう！

華陽自治会連合会

自治会数：66

自治会や各種委員会にて「LINE」のトークやビデオ通話を活用！

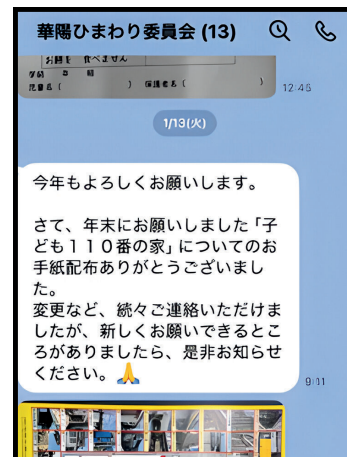
自治会運営における連絡や情報共有の効率化を目的として、**約10年前から「LINE」を活用**している。自治会の連絡は、地区長レベルまで基本的にすべて「LINE」で行っており、自治会以外にも、地域に関係する各種委員会でもグループLINEを作成している。

会議案内や出欠確認、役員間の意見交換、急な連絡などを「LINE」で行い、対面で集まるのが難しい場合には「LINE」のビデオ通話を用いてオンラインで打合せを行うこともある。**自主防災隊の会議は紙を使用せず、会議資料は「Google Drive」に保存**している。

効果・メリット

連絡内容が記録として残るため、「言った・言わない」の防止につながるほか、**緊急時の連絡も迅速に行える**点が効果として挙げられる。

また、人手不足が進む中で、紙による連絡を減らし、**少ない人数でも効率的に自治会運営が行える体制**づくりに役立っている。



▲「LINE」
内容（お礼）

茜部自治会連合会

自治会数：35

「脱・はがき」でコストと手間を削減！

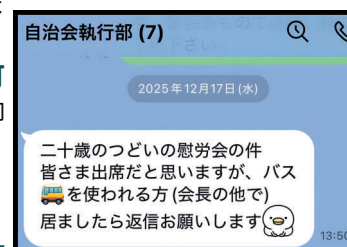
会議案内や決算報告、イベント詳細の共有などを「LINE」で行い、日常的に情報共有を行っている。特に連合会長と書記の連絡は「LINE」を中心としており、急な確認や調整にも迅速に対応できる体制としている。また、各自治会長への連絡については、「SMS」も併用している。

以前は、定期的な案内も含め多くをはがきで対応していたが、**現在は可能な限り「LINE」や「SMS」に切り替え、はがきによる通知を最小限**に抑えている。

効果・メリット

公的な会議では引き続き紙資料を併用しているが、**急ぎの連絡や進捗管理には「LINE」が有効**である。連絡内容が記録として残ることで確認作業がしやすくなっている。

また、自治会長が1年交代となるケースが多い中でも、使い慣れたツールを活用することで、**円滑な連絡体制を維持**できている。



▲「LINE」
内容（出欠確認）

事例 01-2

LINE



連合会役員や自治会でグループを作ってみよう！

詳しくは
p.16へ！

黒野自治会連合会

自治会数：31

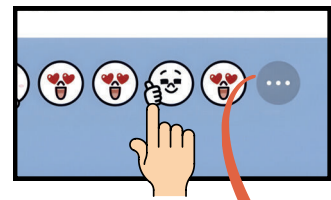
「LINE」のリアクション機能で「誰が確認したか」を把握！

自治会長および関係役員間の連絡手段として「LINE」を活用している。2025年5月から「LINE」へ切り替え、現在は37人が参加する。主な内容は、連絡事項に加え、書類の修正依頼などである。修正が必要な場合は、訂正箇所を写真で撮影し共有することで、具体的にわかりやすく伝達している。提出ファイルの送付で、手書きから解放され効率がアップした。また、「リアクション機能」を活用し、既読状況を把握している。

ITが苦手な方も活用してもらうため、友達の追加やグループ作成方法の研修資料を作成し、研修会を実施。その結果、現在は37名全員が「リアクション機能」で反応できるようになった。

💡効果・メリット

ITが苦手な方も抵抗感なく「LINE」は利用でき、世代間の情報格差の解消につながっている。また、従来の電話連絡中心の体制と比べ、緊急時の連絡やイベントの中止・変更連絡が迅速かつ確実に、役員間の連携がスムーズになった。



誰が見たかわかる！



▲「LINE」
内容（リアクション機能）

西郷自治会連合会

自治会数：22

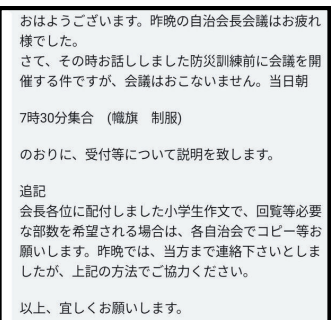
家族のサポートでデジタル化を後押し！取り残さない体制づくり

連合会役員間の連絡手段として、2023年より「LINE」を活用している。主な内容は、追加事項の送付、イベントの連絡事項の共有、急な欠席連絡、過去の資料を送付し新年度に向けた変更点の確認などである。

導入のきっかけとしては、従来行っていた電話連絡は煩雑であり、携帯のメールは既読未読の判別がつかなかったため。スマホの操作に慣れていない役員には、その家族に協力してもらい通知だけでも見ようよう呼び掛けている。

💡効果・メリット

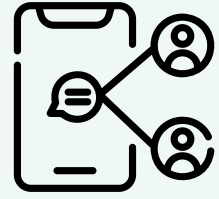
「LINE」は紙のように紛失する可能性が無く、データがスマホに残るためいつでも確認ができる。また、必要な人に一斉送信でき、確認されたか一目瞭然で分かる。



▲「LINE」
内容（追加情報の送付）

コラム

LINEグループの作り方



01

トーク画面から
「+」マークを
押す



02

「グループ作成」を
押す



03

グループに追加
したい友だちを
選択し、「次へ」
を押す



04

グループの
名前を入力し、
「作成」を押せ
ば完成！

グループの名前例：
○○自治会執行部
R7○○自治会役員



※「LINE」のバージョンによって異なる可能性があります。

事例 02

LINEオープンチャット



連合会役員や自治会でグループを作ってみよう！

徹明自治会連合会

自治会数：88

「LINEオープンチャット」で資源回収の課題を解決！

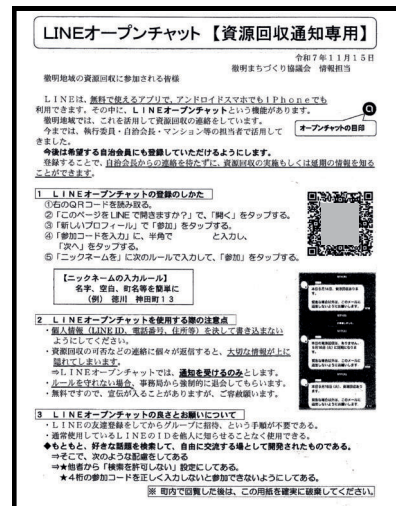
資源回収当日に実施有無が現地に行かなければ分からないという課題をきっかけに、「LINEオープンチャット」を活用した情報共有の仕組みを導入。「LINEオープンチャット」を活用することで、各グループに一齐に連絡が可能となり、自治会長からの連絡を待たずに、資源回収の実施・延期といった情報を即時に共有できるようになった。

用途に応じて「自治会長用」「執行委員会用」「資源回収用」の3つのオープンチャットを作成した。「自治会長用」では岐阜市への提出書類のリマインドや広報物の連絡を実施。「執行委員会用」では日程調整機能を活用し、出欠確認なども実施。「資源回収用」は、マンション管理人など自治会未加入者も参加できる形とした。

効果・メリット

導入前は、電話・SMS・メールを用い、連絡網に沿って、個別に連絡していたため、確認作業に大きな負担がかかっていた。

「LINEオープンチャット」の活用により、情報を一齐に伝達できるようになり、連絡・確認にかかる業務負担が大幅に軽減された。

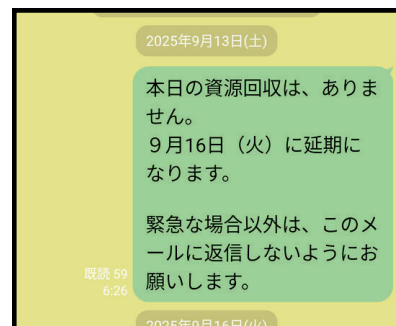


▲「LINEオープンチャット」マニュアル

最初のルール決めがスムーズな運営の鍵！

活用の工夫

- 「LINEオープンチャット」導入後、質問や要望についてのアンケートを実施し、運用を随時改善！
- 参加コードを設定し、地区内の関係者の加入に限定して参加できる仕組みを構築！
- メリットや登録方法、注意点などをまとめたマニュアルを作成・配布！
- ニックネームのルール（苗字+町名）を徹底し、参加者を識別しやすく工夫！
- 返信に関する注意点を明確にし、円滑なコミュニケーションを徹底！



▲「LINEオープンチャット」内容（資源回収の連絡）

事例 03

LINE WORKS



連合会役員や自治会でグループを作ってみよう！

方県自治会連合会

自治会数：10

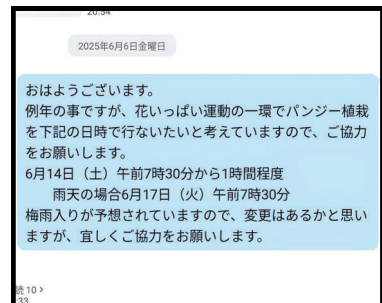
支給タブレットをフル活用！「LINE WORKS」による情報の一元管理

岐阜市から自治会連合会長に貸与されたタブレットを活用し、「**地区別DX訪問サポート（地域コミュニティDX推進事業）**」の一環として、2023年12月頃から「LINE WORKS」を導入。グループを作成し、役員間の情報共有ツールとして、週1回以上の頻度で活用している。

各役員が投稿できる運用とし、防災情報や地域行事、落とし物情報など、地区運営に必要な情報を随時共有している。また、**岐阜市から届く紙資料やメール添付資料もPDF化し、タブレットを活用して共有**することで、情報の一元化を図っている。

効果・メリット

「LINE WORKS」は、**既読状況が確認できる**ため、電話による確認連絡が減少した。**情報共有のスピードが向上**し、紙資料の配布や説明にかかる時間も削減されている。その結果、会議がさらに円滑に進むようになり、**役員の業務負担軽減**につながっている。



▲「LINE WORKS」
内容（行事の周知）

柳津町自治会連合会

自治会数：27

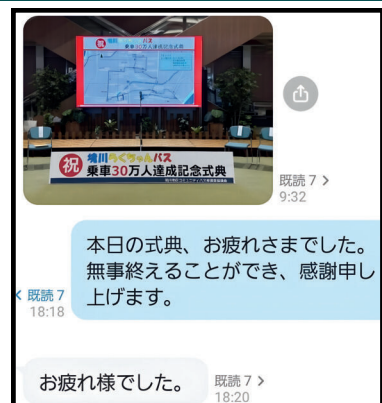
既読者の「特定」で確実な情報伝達！

会長交代のタイミングで自治会連合会および関係役員間の連絡手段として、「LINE WORKS」を活用している。「LINE WORKS」は、**主にメッセージや写真による迅速な情報共有に使用**し、資料の添付が必要な場合はパソコンのメールと使い分けて運用している。

役員や公民館関係者など9名が参加し、会長だけでなく各役員が必要に応じて投稿している。自治会連合会定例会の議案の共有、岐阜市からの連絡事項、防災情報などを随時共有している。

効果・メリット

既読機能により誰が内容を確認したかどうか把握できる点を大きなメリットとしている（※LINEでは人物の特定ができない）。有事の際にも情報が迅速に伝わることを重視し、継続的に活用している。



▲「LINE WORKS」
内容（イベント報告）

POINT

既読メンバー	未読メンバー
<p>既読メンバー (1)</p> <p>既読 1 未読 1</p> <p>あい</p>	<p>既読メンバー (1)</p> <p>既読 1 未読 1</p> <p>さき</p>

既読数が一目で分かる上に、誰が「既読」で誰が「未読」かを確認できます！

事例 04

LINE公式アカウント



紙の回覧板を電子化してみよう！ ～電子回覧板の導入～

金華自治会連合会

自治会数：70

回覧板をスマホにお届け！地域情報を一括配信

回覧板のデジタル化を進め、広報ぎふや防災訓練のお知らせなどの紙資料をスキャンしてPDF化し、登録者に「LINE公式アカウント」を通じて配信する仕組みを構築した。当初は「LINEオープンチャット」を試行したが、誰でも投稿できる仕様のため情報整理が難しく、一方で確実に情報を届けられる「LINE公式アカウント」へ移行。

チラシによる周知を行い、登録を促進。現在の登録者数は約300人である。2025年10月からは金華地区全体に拡大している。回覧資料(A4)の配信にかかる時間は、1回あたり約5分程度である。

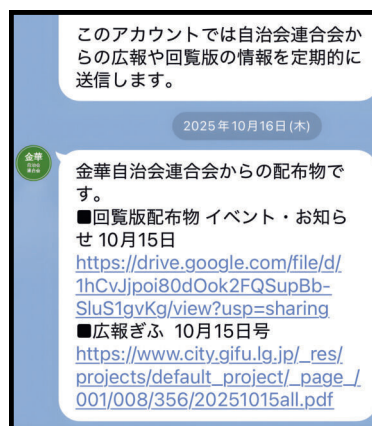
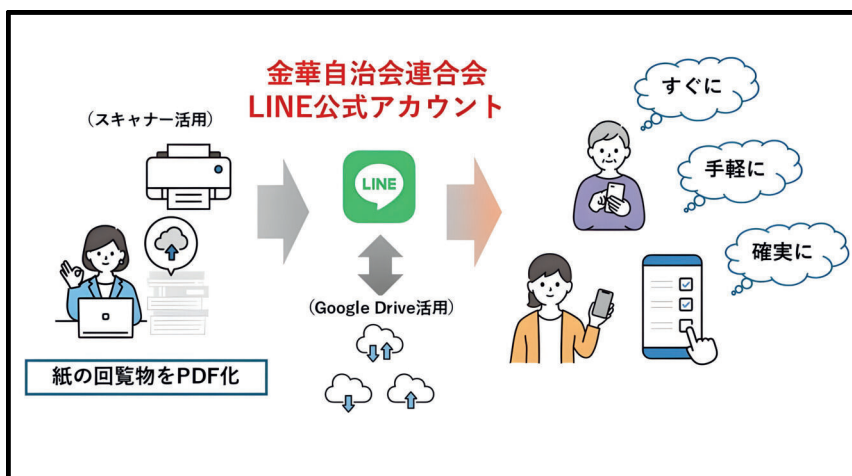
効果・メリット

紙の回覧板では、世帯内で情報が止まることや、回覧板が戻らないという課題があった。デジタル化により個人に直接情報が届くようになり、情報伝達の確実性が向上した。特に若い世代や単身世帯、長期不在世帯にも情報が届きやすくなり、地域全体への周知力が高まっている。また、紙の回覧板が戻らないといった従来の課題の解消にもつながっている。



▲「LINE公式アカウント」登録用チラシ

デジタルツールの活用 ～構成イメージ～



▲「LINE公式アカウント」内容 (イベント・お知らせ)

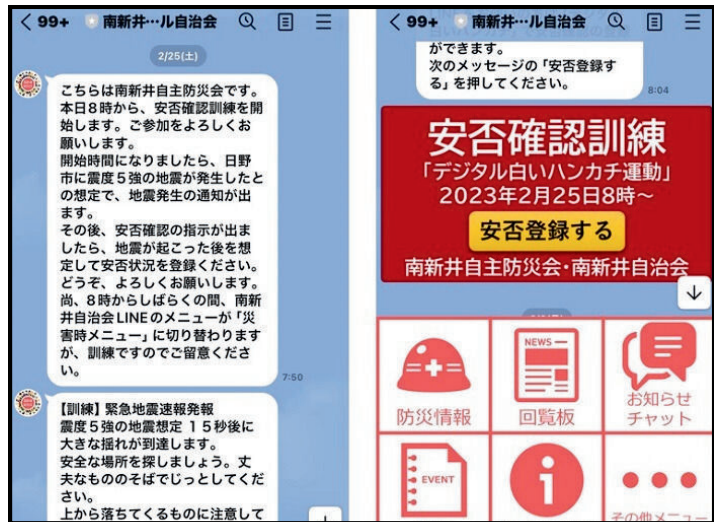
※「Google Drive」とは、Googleが提供する無料から使える大容量のクラウドストレージ (オンライン保存) サービスです。「LINE公式アカウント」のメッセージの一斉送信ではPDFファイルを送信できないため、PDFファイルをスマホやパソコンから「Google Drive」にアップロードし、共有用のURLをメッセージに記載することでPDFファイルを共有できます。

コラム

LINE公式アカウントの活用事例 (他市町村の取り組み)

「LINE公式アカウント」での安否確認（東京都日野市南新井自治会）

- 「LINE公式アカウント」から、登録している自治会の会員住民あてに確認メッセージを送付できます。
- 受け取った人が、フォームから安否確認情報を登録すると、本部の管理画面に自動で反映されます。
- 「LINE公式アカウント」を活用したデジタル安否確認訓練により、災害時、外出中でも迅速に安否確認が可能になりました。

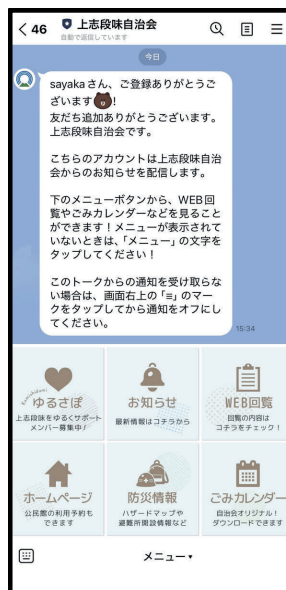


「町会つながる！デジタルコンテスト」受賞
東京都日野市南新井自治会



「LINE公式アカウント」のメニュー機能（名古屋市守山区上志段味自治会）

- 「LINE公式アカウント」のトーク画面下部に固定表示される画像付きのメニューをアカウントごとに自由に設定できます。
- 画像をタップすると、ホームページや大切な情報を見ることができます。



コラム 地域にあったツールを選ぼう！

役員間のやりとりを
簡単に行うなら！

LINE

事例01 (P.3-5)

匿名性を保ちつつ
大人数でやりとりするなら！

LINE オープン
チャット

事例02 (P.6)

プライベート (LINE) の
連絡と分けるなら！

LINE WORKS

事例03 (P.7)

地域全体へ一斉に
お知らせするなら！

LINE公式
アカウント

事例04 (P.8)

概要

友だちや家族と1対1の
トークから、複数人の
グループトーク、音声
通話などを無料で利用
できるアプリ

LINE上で本アカウントとは
別のニックネームでトークが
でき、情報を把握できるサー
ビス

LINEのような使い勝手に会
社や自治会、チームごとに登
録し利用するビジネス版
LINEアプリ

LINE上で友だち追加してく
れたユーザーに一斉情報を届
けられるビジネス用サービス

特徴

○利用者が多く導入、
運営がスムーズ
△ニックネーム使用者
が多い

○LINEで友だち登録をしな
くともグループトークが
できる
△運用ルールの明確化が必要

○既読、未読者の把握が可能
○LINEとの外部連携が可能
△定期的なログインが必要

○基本的に管理者からの発信
になるため、必要な情報が
メンバーに届きやすい
△メンバーの完全把握が困難

メンバー
管理

誰とでも自由に
つながる

誰でも参加可能
(承認制の設定にも可能)

管理者が登録した
メンバー

誰でも参加可能

料金
【プラン】

無料

無料

【フリー】
基本容量5GB 無料
【スタンダード】
基本容量1TB 540円/月
【アドバンスト】
基本容量100TB 960円/月
(※月額契約の場合)

【コミュニケーション】
月200通まで無料
【ライト】
月5,000通まで5,000円/月
【スタンダード】
月30,000通まで15,000円/月
※配信数のカウント方法(参考)
登録者100人×2回発信=200通

参加人数

1グループ最大
500人まで

5,000人まで

【フリープラン】
30人まで
【有料プラン】
上限なし

上限なし

主な機能

- 音声・ビデオ通話
- トーク
- アンケート

- トーク
- ノート

- 音声・ビデオ通話
- トーク
- カレンダー
- 掲示板
- メール

- メッセージ配信
- 自動応答

ガイド

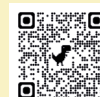
「LINEみんなの
使い方ガイド」



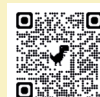
「つかい方ガイド」



「はじめ方
基本操作資料」



「LINE公式アカウントの
作り方」



事例 05

ホームページ



情報を広く発信しよう！

鏡島自治会連合会 まちづくり協議会

自治会数：58

ホームページで「いつ・何を」周知したかを確実に記録！

情報発信・共有の場として、2022年12月頃からホームページ（HP）「鏡島自治会連合会 まちづくり協議会」を活用している。主に、行事予定やイベントの中止・変更連絡など、地域全体に周知すべき情報を集約して掲載している。「LINE」は日常的な連絡や補足連絡に、「HP」は情報を確認する場として使い分けている。自治会長会議の際には「HPを見てほしい」と毎回周知することで、HPを確認する習慣が定着した。

また、HPに問い合わせフォームを設置したことで、若い世代からの意見や相談が寄せられる事例も生まれている。

効果・メリット

情報が記録として残るため、「いつ・何を周知したか」を後から確認できる点が、運営上のメリットである。また、情報の集約・整理が進み、地域全体への周知がより確実になっている。



▲「ホームページ」
鏡島自治会連合会 まちづくり協議会

鷺山まちづくり協議会

自治会数：53

地域の「いま」を可視化！さぎ山MAPで所属自治会も一目瞭然

約13年前から、まちづくり協議会のホームページ（HP）「さぎ山の広場」を運営し、活用内容の紹介（二十歳のつどいの写真や日記など）やイベント・大会の案内、中止などの連絡を行っている。あわせて、「LINEオープンチャット」でもHPを案内し、必要な情報にアクセスしやすいように工夫している。

また、「さぎ山MAP」を作成・公開しており、地図を見ることで、どの自治会に属しているかがわかるようになっている。



▲「ホームページ」
さぎ山の広場



▲「ホームページ」
さぎ山MAP

コラム

SNSとは？



情報を広く発信しよう！

SNSとは？

SNS（エスエヌエス）とは、Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、人と人がインターネット上でつながり、文章や写真、動画などを通して情報を発信したり、コミュニケーションを取ったりできるサービスのことです。

代表的なものとして、情報発信に適したInstagram、X、Facebook、TikTokや連絡ツールとして使われるLINE（ライン）などがあります。

主な情報発信向けのSNSの種類と特徴

01 Instagram（インスタグラム）



写真や動画で伝える



- 行事やイベントの様子を写真でつたえられる
- 利用者の年齢層が幅広い



- はじめは加工に手間がかかる

02 X（エックス）



短い文章で素早く伝える



- 発信した情報が拡散されやすい
- 緊急のお知らせや最新情報の発信がしやすい



- 文字数制限がある

03 Facebook（フェイスブック）



文章で詳しく伝えられる



- 活用内容や報告をしっかりと説明できる
- 実名で使う人が多く、信頼感がある



- 登録項目が多い

04 TikTok（ティックトック）



短い動画で印象に残す



- 若い世代にも情報が届く
- 付帯の機能で面白い動画が作れる



- 10～20代の利用者が多く、利用者に偏りがある

POINT

- 目的やターゲットに応じて、どのSNSが適しているか判断しましょう！
- SNSで情報を発信するときは、個人情報の取り扱いに注意し、投稿する前に複数名でチェックすると安心です！

STEP1

利用するSNSで自治会アカウントを開設

STEP2

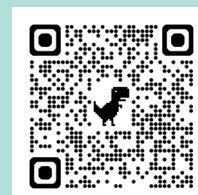
QRコードやリンクなどで知ってもらう

STEP3

投稿を作って情報を発信する
定期的に更新しよう！



岐阜市のSNSはこちら！



岐阜市ホームページ

事例

06

ZOOM



オンラインで会議をしてみよう！

ZOOMとは？

Zoom（ズーム）とは、インターネットを使って、離れた場所にいる人と顔を見ながら話ができるオンライン会議サービスです。

パソコンやスマートフォンから参加でき、会議や打ち合わせ、研修など、地域の会合にも活用できます。アカウントや専用のアプリをインストールしなくても、ブラウザからも参加は可能です。

【主な機能】

- ビデオ通話：顔を見ながらの会話
- 音声通話：カメラを使わずに音声のみで参加
- 画面共有：自分の資料をほかの参加者に見せて説明
- チャット：会議中に質問等を文字でやり取り
- 録画・録音：会議内容を記録して、後から見返す
- ブレイクアウトルーム：大人数をグループに分ける

スマートフォンでも
オンライン会議に
参加することができます！



無料版

【時間】

40分/回

【参加者の定員】

1回のミーティングにつき
最大100人の参加者

有料版

【時間】

30時間/回

【参加者の定員】

1回のミーティングにつき
最大100人の参加者

その他の主な オンライン会議ツール

- Google Meet
- Microsoft Teams など

自治会連合会ではこんな使い方をしています！

・政策オリンピック、総会、自主防災隊と予定が詰まっていた時、リアルで集まることが難しかったため、「ZOOM」を使用してオンライン会議を実施した。

・役員の定例会に負担を感じていた方も、オンラインであれば参加しやすくなり、負担の軽減や担い手不足の解消につながった。

・コロナがきっかけで導入。月初めに岐阜市自治会連絡協議会、翌日に執行部定例会、中旬に自治会長に集まってもらって連絡を共有しているが、どうしても会議に対面参加できない方は、「ZOOM」で参加してもらうことがある。事前に資料は配ってあるため、見ながら進行が可能。

事例 07

防災



災害時の体制をデジタルで整えよう！

本荘自治会連合会

自治会数：100

デジタルマップとQRコードで要支援者の救助を効率化！

様々な情報を活用できる電子地図ソフト「スーパーマップル・デジタル」に介護要支援者や高齢者等の情報を登録することで、地図上でどこに支援が必要な方がいるか確認でき、効率的な救助が可能となる。また、情報を登録した方にQRコード付キーホルダーを配布しており、QRコードを読み込むとあらかじめ登録した連絡先や医療機関情報等が確認可能なため、徘徊者を保護した際は、身元を早期に特定できる。災害発生時には、避難所においてQRコードを読み取り、避難者の特定や避難者の人数を把握する。日常的にもサロンの出席確認をQRコードを利用して行っている。

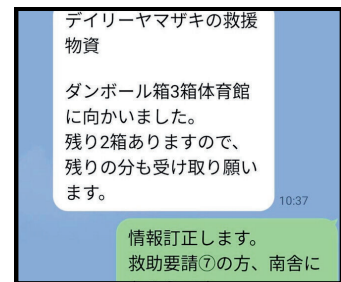
「LINE」も活用しており、災害時には各種要請や情報共有を行う。

効果・メリット

避難所やサロンでの受付事務の簡素化。また、情報共有が要所、要所、それぞれの立ち位置でできるようになった。



▲QRコード付キーホルダー



▲「LINE」内容（防災訓練での情報共有）

鷲山自治会連合会

自治会数：53

安否確認を迅速に集計！アプリとオンラインフォームの二段構え

連合会役員や単位自治会長、防災関連団体、市派遣職員の召集、連絡・情報交換のツールとして、防災アプリ「防災トーク」を導入。

一斉招集機能により、通知を受けた人が安否確認を行い、現在の状況を回答する仕組みを整備しており、連合会長は一覧で状況を把握できる。また、情報交換機能を活用し、火災、建物、道路、浸水などの被害情報を共有するとともに、被災マップ機能により、危険箇所を写真付きでマップ上に登録・可視化できる。文章・画像・音声・PDFの添付に対応。年に1回、スマホ活用講座や防災トークの使用研修を開催している。ITサポート担当がいることで、円滑に進んでいる。

効果・メリット

通信が途絶した場合に備え、紙で安否確認を報告できる仕組みを整備しているほか、通信が可能な場合は、「防災トーク」や「Googleフォーム※」で報告するなど、デジタルツールを中心としつつ、非常時にも機能する体制を構築。これにより、情報共有を必要な場面・立場で迅速に行えるようになり、防災対応力の向上につながっている。

▲「Googleフォーム」安否確認表

※Googleフォームは、アンケート、申し込みフォーム、テストなどのオンラインフォームを無料かつ簡単に作成できるGoogle社のツールです。

コラム

デジタル活用をサポートする お役立ち情報



岐阜市の制度をご紹介します！ ～地区別DX訪問サポート～

岐阜市では、地域コミュニティのDX推進事業の一環として、自治会連合会やまちづくり協議会の活動におけるデジタル化を支援するため、「地区別DX訪問サポート」を行っています。

「地区別DX訪問サポート」に関する詳細は、市民活動交流センター（058-214-4791）までお問い合わせください。

○主なサポート内容

- ・LINE WORKSやLINEなどのアプリの導入支援（連合会役員など）
- ・LINE WORKSやLINEなどのアプリの活用方法（メンバー追加・削除、掲示板、アンケート機能など）
- ・スマートフォン・タブレット・パソコンの基本操作
- ・オンライン会議の方法
- ・他地域の事例紹介
- ・地域コミュニティでのデジタル活用に関する相談
- ・そのほか、ご希望に応じたサポート



▲「地区別DX訪問サポート」
訪問サポートの様子

目次		第2章「LINEWORKSについて」
項目①	LINEWORKSとは？	2.4
項目②	*LINEWORKSと“LINE”とのちがいは？	2.5
項目③	LINEWORKSでできること	2.6～2.8
項目④	LINEWORKSを使ってみよう	2.9、3.0
項目⑤	LINEWORKSを使ってみよう（トーク）	3.1～3.3
項目⑥	連絡協議会との連絡について	3.4～4.2
項目⑦	担当課との連絡について	4.3～4.9
項目⑧	カレンダー機能について	5.0

▲「地区別DX訪問サポート」
研修資料の例



スマートフォンの使い方を学びたい！

スマートフォンは、災害が起きた時などに「情報収集」や「連絡手段」としても活用できますが、使い慣れていない、使いこなせていないと感じている人も多いのではないのでしょうか。下記のページでは、スマートフォンやLINEアプリなどの使い方を紹介しています。地域でスマートフォン講座などを開催する際にも活用できます。

岐阜市「スマホの使い方ハンドブック」

気になったら
いますぐチェック！



岐阜市ホームページ

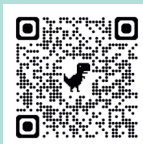


岐阜市 スマホの使い方



総務省「デジタル活用支援推進事業 標準教材・動画」

気になったら
いますぐチェック！



総務省 デジタル活用
支援ホームページ

総務省 デジタル活用支援



(教材イメージ)

地域の方にインタビュー！

～ 「LINE」 でつながる自治会運営 ～



黒野自治会連合会 副会長兼事務局長さん

Q.黒野地区でのDX推進のきっかけは何ですか？

A.2023年に岐阜市から地域コミュニティDX推進事業の一環として「**地区別DX訪問サポート**」の案内があったことがきっかけです。講座を行った際は、「LINE WORKS」というアプリを紹介・導入していただきました。

Q.「LINE WORKS」はいかがでしたか？

A.既読者・未読者が分かる機能はとても魅力的です。ただ、無料版だと30人までの制限があることと、30日を過ぎると自動的にログアウトされ、地域の皆さんからパスワードを忘れたとの問い合わせが多発したため、実際の運用には至りませんでした。

Q.そこからなぜ「LINE」を利用されましたか？

A.普段から使用している方が多く、ITが苦手な方も抵抗感なく利用できるからです。講座を開催したことでデジタルツールの必要性を地域の皆さんも感じていたので、「LINE」の導入はスムーズでした。

Q.「LINE」をどのように運用していますか？

A.現在、LINEグループに参加しているのは自治会長全31人と役員や各種団体長等6人の計37人です。私から定例会の内容や資料を送付したり、訂正箇所があれば写真などを撮って連絡したりしています。その際に、メンバーの皆さんには「**リアクション機能**」を使って「**読みましたよ**」と意思表示をいただくようルール化しています。これによって、誰が見たか見ていないかを把握できるようになりました。

Q.「LINE」のメリットは何ですか？

A.ご高齢の方でも使い方に慣れていることと、「LINE」に限ったことではないかもしれませんが、**デジタルツールを使うことで記録が残り、責任をしっかりと果たしている証拠になる**ため、役員として安心感があります。



Q.「LINE」で苦勞・工夫していることは何ですか？

A.ニックネームを使用している方もいるので、**最初にフルネームを送ってもらい名前の表示を変更**しています。また、「リアクション機能」は誰が見たかを示すようになっているので、未読者を把握するには名簿等でチェックする必要があります。

Q.今後の展望を教えてください。

A.現在は私からの連絡が多いので、他のメンバーからの連絡が活発になると良いなと思っています。**自治会長の悩み、問題を共有することで、新たな発想、解決策が生まれる**ことがありました。

【商標】

・本冊子に記載されている商品名・サービス名等は、各社の商標または登録商標です。

【出典】

・本冊子に掲載している画像は、該当するツールをスマートフォン等で操作した画面をスクリーンショットまたは撮影したもの、当該ツールを提供・運営する事業者の公式マニュアル等から引用したもの、または各地域で実際に使用されている資料を基に掲載したものです。

【免責事項】

・本冊子に掲載しているツールの機能、性能、動作等について、本市が一切保証するものではありません。また、本冊子の利用または掲載しているツールの利用により生じたいかなる損害についても、本市は責任を負いかねます。

編集・発行

岐阜市市民協働生活部
市民活動交流センター

☎058-214-4791

〒500-8076 岐阜県岐阜市司町40-5
Email : comm-act@city.gifu.gifu.jp

令和8年3月発行

※各種ツールのアップデート等により、操作方法や仕様が変更となる場合がありますので、ご注意ください。

